令和4年度 島根県立出雲商業高等学校　学校評価表

評価方法　A:十分達成できている　B:おおむね達成できている　C:達成が不十分である

評価項目	評価領域	中期目標	短期目標	成果・評価指標（数値化）	資料	担当分掌	内部評価		学校関係者評価		改善策
							達成状況	評価	考察	評価	
学習指導	学力向上	商業高校として基礎学力の定着と向上を目指し、授業を充実させる	（確かな基礎学力と幅広い知識・教養の実現のために） 授業の改善、主体的・対話的で協働的な学びの導入	生徒による授業評価の「生徒自己評価」「生徒による授業評価」の平均が１点台	授業評価アンケート	教務	2学期の結果は、平均ですべて1点台で、過去最高だった昨年度を更新。	B		A	新学習指導要領で、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が求められる中、従来の授業評価アンケートの見直しが必要か。
				「一人一人に目を向けた学習指導・個別指導が行われている」（十分できている・おおむねできている）と答える生徒の割合 80%	学校教育に関するアンケート	教務	生徒の肯定的回答は77%にとどまったが、教員は92%が「生徒の学力向上に向け、適切かつ効果的な指導・支援を行」い、91%が「生徒の学力向上へ向け、教科担当者・担任・学年部等が連携して効果的な指導・支援が行われて」いると回答。生徒と教員間で意識の差がある。学年別では、1年生の生徒からの評価が若干低い	C	生徒と教員感の意識の差は、視点の違いに思います。教科指導はどうしても点数等の評価をもとに行うため、この構造と受け取りの違いあたりに論点がある気がします。	C	生徒が具体的に自身の成長を実感できるような「指導と評価の一体化」を図ることで意識差を埋められるのではないか。具体的には形成的評価や振り返りが有効に機能するよう、教員間で有効な評価方法について等、教科主任会等で情報共有を行いたい。
				「学校の授業や指導は、自分の学力や専門性、主体的に学ぶ力を高めるのに役立っている」（そう思う、どちらかというとそう思う）と答える生徒の割合80% 「本校は、お子様の学力や専門学科の専門性を高めるような指導を行っている」（十分できている・おおむねできている）と答える保護者の割合80%	授業評価アンケート	教務	肯定的評価は生徒95%、保護者79%と差がある。「主体的に学ぶ姿勢があるか」を問う項目でも、肯定的回答は生徒93%、保護者66%と差がみられた。	B	「差」に関する考察を、仮説でもいいので教員の皆さんで検討・意見交換いただくことが必要に感じました。この部分がないと次のAを、建設的・実効的に考えにくいように感じました。	B	本校のグランドデザインに照らして、本校が育みたい生徒の「学力」「専門性」「主体的に学ぶ力」とは具体的にどのようなもので、どのような手立てでそれを育むのか、教科主任会等で、検討する必要がある。また、それを生徒・保護者にも丁寧に伝えることが必要か。
				「ICT機器などを活用する等、学習内容に興味・関心が持てる工夫した指導が行われている。」と答える生徒の割合80%	学校教育に関するアンケート	教務	肯定的評価は生徒82%。1年生での評価が他学年に比べると高い。	B	1年生から新学習指導要領になったことが結果に大きく影響していると考えられます。するとこの項目自体が陳腐化するのではないかとも思います。その点についても検討いただきたいと感じました。	B	ICT機器は生徒にとって所与のものとなりつつあり、「ICTの活用→り学習内容に興味・関心がもてる」という仮説の立て方自体に無理があった。「CT活用を進めること」と、「学習内容に興味・関心があるか」は必ずしも相関しない。次年度はグランドデザインや重点目標に即したアンケート内容に変更を検討したい。
			（確かな基礎学力と幅広い知識・教養の実現のために）学習習慣の改善	ふだんの授業外での学習について、「毎日学習する」（「毎日こつこつ学習する」「毎日学習するが、集中できない」）と答える生徒の割合　各学年　50%、 授業外学習レベル「周囲の人に教えることもある」「宿題や課題以外も学習する」と答える生徒の割合 50%以上	進路マップ結果	教務 進路	6月と10月時点で調査。「毎日学習する」生徒は、1年生で6月３０%、10月月23%、2年生6月14%。１０月11%。（全国平均は10月１年生16%）1日当たりの授業外学習時間は1年生6月60分、10月49分、2年生6月43分10月35分と減。（全国平均は1年生10月37分）授業外学習レベルで主体的に取り組む生徒は、1年生で6月29%、10月22%。	C	勝手な憶測ですが「学ぶことが楽しい、そしてこれは高校生同士で称賛される行動である」という文化醸成が弱いのかなということです。教員介入をすればするほど実現が難しいように感じます。商業高校だから/進学校だからどうこうではなく。	c	「教科学習と探究学習の往還」がうまくいっていないことが原因か。R5年度は、R6年度を見据えた探究の試行を2学年で行い、その中で「教科学習と探究学習の往還」を図れるよう教科主任会等でも検討を重ねたい。
			検定合格率を向上させる	全商検定８０%以上の合格率を目指す	検定結果	商業	80%に到達できた検定は電卓検定（普通計算）のみであった。新教育課程となり、全商検定も今年度から内容が大幅に変わったものもあり、授業と補習を連動させながら細やかな指導に努めたい。合格できなかった生徒が次の回で再受験する人数は昨年よりも増え、積極的に取得しようとする意識が育まれつつある。	c	この指標については、私自身の理解が浅いのもあるのですが、社会の変化にマッチしているのだろうか？と感じる部分が多いです。もう少し私自身が勉強したいと思います。結果数値のみで評価しています。	C	検定受検マップの配布を行い検定試験に主体的に取り組める支援を行っていく。前回不合格者の再受験を促す声掛け（担任・科目担当）、演習や教材の案内、質問に応えられる体制づくりを行う。 3学期の検定前補習がさらに充実した時間になるよう見直しを行う。

評価項目	評価領域	中期目標	短期目標	成果・評価指標（数値化）	資料	担当分掌	内部評価		学校関係者評価			改善策
							達成状況	評価	考察	評価		
			一つ上を目指す資格取得に挑戦させる	日商簿記検定合格率20％以上 ITパスポート　25％以上	検定結果	商業	高度資格取得はCBT受験を勧めており受験機会も多くなった。何回も粘り強くチャレンジする生徒も多くなり、今年度は日商簿記の合格者数も昨年より多かった（6→11）。意識と目標を高く維持できるような指導に努め、学習支援体制の充実を図りチャレンジする生徒を増やしていきたい。	c	この指標については、私自身の理解が浅いのもあるのですが、社会の変化にマッチしているのだろうか？と感じる部分が多いです。もう少し私自身が勉強したいと思います。結果数値のみで評価しています。	C		教科・科目間、進路指導部、学年部と連携を深め、長中短期の目標を設定させ、商業科の支援体制を充実させる。 機会を見つけては全校生徒へ1級3種目以上取得を奨励する。

評価項目	評価領域	中期目標	短期目標	成果・評価指標（数値化）	資料	担当分掌	内部評価		学校関係者評価		改善策
							達成状況	評価	考察	評価	
特色ある学校	商業教育	学科の特性に基づいて、生徒の個性を伸ばし、専門教育を深化させる	生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程の実施と改善	グランドデザイン、スクールポリシーに照らしたカリキュラムの改善	商業科会 魅力化推進委員会 教科主任会	魅力化（教務）	商業科会より新教育課程に関して更なる見直しが提案され、生徒の実態やグランドデザイン、スクールポリシーに照らし、令和4年度入学生以降の教育課程を一部変更。1年生で、探究的な学びを一部試行。校内での共通理解を図りながらの実施。	C		C	グランドデザイン、スクールポリシーの実現をどう図るか、その道筋や手立てについて、校内で一層の協議と共通理解が必要。魅力化推進部、各学科、商業部が中心となり、教科主任会等も協力て、具体的取組に落とし込んでいく必要がある
			ビジネスマナー教育を充実させる	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：1．5P以内、保護者：1．5P以内、教職員1．5P以内	学校評価アンケート	商業	今現在(2/6)で26回のビジネスマナーを全校生徒参集で実施できている。挨拶練習だけでなく、規範意識を高めていくことも伝えた。また、他の分掌の先生方からも講話をいただくことができた。生徒はデパートの実施により、ビジネスマナーが大切であると感じ、意識の変化が現れた。	B		B	期間ごとにビジネスマネーのテーマを設定し生徒の理解を深めさせる。また、各分掌との連携を図り、ビジネスマナー以外の規範意識や学校生活を送る心構えなどが向上できる講話を行い共通理解を図る。
			商業科目の内容を充実させ，専門性の深化を図る	課題研究発表会　生徒評価　1．5ポイント以内 授業評価　1．5ポイント以内	課題研究発表会生徒評価 授業評価アンケート	商業	3年生については探究とは何かという探究トレーニングから始め、地域課題や企業課題に取り組み、ビジネスの見方考え方を養えた。 学科や学年、コースごとに修得させたい知識・技術を科内や科目担当で共有して連携を図った	B		B	従来の課題研究の構成を見直し、生徒一人一人が地域経済の活性化に貢献できる力を養える取り組みを検討する。 3年次の課題研究が1.2年生の探究活動の集大成となるよう計画する。
	外部連携		生徒・保護者・地域・中学校等へのタイムリーな情報発信（HP等）を行う	アンケート評価項目の肯定的意見 中学生：95％以上、保護者：55％以上、教職員：80％以上	学校評価アンケート	総務	オープンスクール（中学生対象）では、進路を考える上で「参考になった」とする回答が99％であり，肯定的な結果がほとんどであった。また、昨年度学校説明会として開催した行事を一部簡素化して第2回オープンスクールとして10月初旬に開催した。ホームページによる情報発信については、肯定的な回答は、保護者が47％であり、教職員が96％であった。保護者の評価が昨年度よりも低下してしまっている。	B	生徒の反応と保護者の反応の差。情報発信がなされていると埋まるのでは。ふだんから情報発信していただけると、内容を把握しやすい。	C	各行事ごとに担当分掌に働きかけて記事を作成してもらう。部活動の結果を掲載するよう，他分掌とも連携をとって体制を構築する。
			地域の各種団体と連携した学習指導を行う	外部団体と連携した授業を実施した講座数が18講座以上	各教科資料	商業	課題研究では7つの講座で外部の企業や団体と企業課題や地域課題について協働的に課題解決に向かう力を養った。1年生は探究学習において外部企業から講師を派遣していただいた。また、金融教育として金融広報委員会が各学年を対象に講座を行った。情報処理科については、市内IT企業と連携した特別授業（IT人材育成事業）を行った。	B	（この項目については、指標が講座数になっていますが、外部と連携した意義を生徒が感じているかなど、連携の目的を意識したを評価指標にしなければ、改善・次の取組の立案のしようが無いように感じます。）	B	1年次は「地域の魅力や課題を学ぶ・地域の人を知る」、2年次は地域探究の学びにチャレンジできるよう「もっと地域のことを知り、仲間と共に考えたい」、3年次においては「自分の意思で取り組みたい」という意識が持てるよう、企業や団体に積極的にアプローチし、各教科との連携も図りながら活動を具現化して進めていきたい。

評価項目	評価領域	中期目標	短期目標	成果・評価指標（数値化）	資料	担当分掌	内部評価		学校関係者評価			改善策
							達成状況	評価	考察	評価		
	生徒指導・保健相談	望ましい生活習慣を確立させ、主体的で明るく、規律正しい生活態度を育成する	社会人として通用する挨拶・マナー・身だしなみ・ふるまいの指導を行う	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：80％以上、保護者：60％以上、教職員80％以上	学校評価アンケート	生徒指導	生徒100％、保護者82％、教職員96％という回答であったが、学年が上がるにつれて服装やマナーが守れない生徒が増える傾向にあると感じており、一部の教員でしか服装指導がなされていない現状である。 来年度は、生活安全委員による挨拶運動や商業部のビジネスマナーとも連携して、商業高校生としてふさわしい振る舞いができるようにしたい。	B		B		生活安全委員による挨拶運動や商業部のビジネスマナーとも連携して、商業高校生としてふさわしい振る舞いができるようにしたい。
			教育相談を充実させ、問題を抱える生徒の早期発見と適切な対応を行う	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：80％以上、保護者：70％以上、教職員85％以上	学校評価アンケート	保健相談	肯定的評価が保護者については57％と低く、「わからない」が25％もあった。常時相談の窓口を求められている。保護者全員にSCの案内はしており、個別にも保護者に対してSCの利用を呼びかけている。「わからない」は特に問題のない場合で、SCに関わりのない保護者であるということも考えられるが、様々な思いを受けとめる窓口を求めているとも言える。また、生徒は各学年で1割の生徒は悩みに対応していないので、HRでの面談、保健室来室時の面談、部活動での面談等を連携して行っていく必要がある。	B	「わからない」が25％にもなるならば、調査設計の仕方を工夫する必要があるように思います。全く別の視点になりますが、高校生の親でもある個人としての意見ですが、面談や教育相談もオンラインを活用していただけるともっと利用しやすいのに、と思います。	B		・アンケートの設定を見直す。 ・保護者にむけた教育相談の発信を増やす。 ・保健相談部が担任等と連携して生徒への面談を増やす。
			安全・安心な学校を目指し、教育環境の整備を行う	安全点検の実施（年2回）	学校保健委員会資料	保健相談	安全点検で指摘のあった箇所について事務部と連携しながら危険箇所の修繕を実施している。予算との兼ね合いがあり相談しながら、優先順位の高いところから対応している。古い校舎のため日常的に安全を点検する意識で校内環境を見ていく必要がある。清掃活動は十分でない箇所もある。日課として100％できるように協力を呼びかけていく。手洗いうがいの励行、黙食の習慣化を生徒会と協力して今後とも指導する。	B	学校の安全点検年2回。日常生活でのヒヤリハットを把握していくとよい。	B		・定期の安全点検のみならず毎日の掃除時間を活用して、学校生活の環境を点検する。 ・危険な箇所はまずはヒヤリハットとして全体で共有し、迅速に対応する。 ・生徒会と協力して、手洗い消毒・教室の換気を継続する。

評価項目	評価領域	中期目標	短期目標	成果・評価指標（数値化）	資料	担当分掌	内部評価		学校関係者評価			改善策
							達成状況	評価	考察	評価		
特色ある学校	進路指導	自己の目標に向かって意欲的に学ぶ生徒を育てると共に適切的確な進路指導を行う	生徒に明確な進路目標を決定させる	進路希望未定者の割合 1年生：20%、2年生：5%	令和5年1月実施 第2回進路希望調査	進路指導	1年生：12%，2年生：10% 今年度から、2年生は1，2学期末に進路連絡会を行うなど、生徒への早めの進路指導を心がけている。2年生は「未定」が10%となっているが、深く考えた上での未定ではないかと考える。引き続き、未定の生徒については、どういう点で悩んでいるかを確認しながら、進路としてできる限りのサポートをしていきたい。	B	進路希望未定者の数。1年生で8割の生徒が先を見えているのはすごいこと。商業高校として進路をしっかり見据えて指導されている。	B		現状の更なる改善のために、2年次の進路指導として、7月、12月の2年進路連絡会に向けての個人面談の強化や会議に参加するメンバーの増員など、改善を図っていきたい。
			望ましい職業観を育成し、学年段階に即したキャリア教育を計画的に行う	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：95%以上、保護者80%以上、教職員90%以上	学校評価アンケート	進路指導	生徒：⑬97%，教職員：⑲96%，⑳96% 概ね達成できていたように思う。今後も、生徒が3年間を通して効率的に進路学習ができるよう、行事の内容や順番、時期など、更なる改善に努めたい。	B		B		現状の更なる改善のために、1年次の進路指導として、①自分の適性を深く知るための施策（「進路適性検査」等）、②進路の視野を広げるための施策（「進路体験発表会」「地元企業ガイダンス」等）、の改善を図りたい。
			進路情報の提供や個別指導により、就職・進学の両面における指導を行う	進路行事を、毎月、Webページに掲載する アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：95%以上、保護者：65%以上、教職員75%以上	ホームページ履歴 学校評価アンケート	進路指導	HP：4月2回，6月3回，7月2回，10月1回，11月2回，計10回 生徒：⑭95%，⑯96%，⑰94% 保護者：⑧65%，⑨66% 教職員：㉑79% HPへは、年内までに10回掲載することができた。また、奨学金の情報提供について、総務部と連携して、すべての保護者に周知できるよう、改善策を検討したい。	B		B		現状の更なる改善のために、情報量ではなく、質の面でも改善を図っていきたい。また、奨学金の情報が保護者にも確実に届くよう、奨学金専用の掲示板を設けたり、様々な奨学金を1つの表にまとめるなど、総務部と連携して取り組んでいきたい。
	部活動・生徒会活動等	望ましい人格形成を目指した特別活動への積極的な参加を促し学校を活性化させる	生徒の読書や授業での図書館利用を促進させる	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：70%以上、教職員80%以上	学校評価アンケート	図書 視聴覚	図書館の利用しやすさ、朝読書への取り組み、読書の大切さなど、肯定的な意見が非常に多かったが、一方で、図書館メディアを学習活動に利用できると答えた生徒が6割にとどまった。改善策を検討したい。	B		B		各教科での図書館利用を教科担当者に呼びかけたり、生徒には進路や生活などの幅広い情報が得られることを伝えていく。
			部活動への積極的な参加を促し活性化させる	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：75%以上、保護者：60%以上、教職員80%以上	学校評価アンケート	生徒指導	生徒91%、保護者80%、教職j員92% 部活動は活発に行われていると考える。しかし、望ましい人格形成を目指した活動として、部活動で教わった礼儀やマナー、身だしなみや振る舞いが学校生活に般化しているとは言えない。	B		B		引き続き、部活動説明会や各種行事を通じて、部活動の魅力を発信していく。
			生徒会活動を見直し活性化させる	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：80%以上、教職員80%以上	学園祭アンケート 学校評価アンケート	生徒指導	生徒93%、教職員100% 今年度は、生徒会と連携し、これまでコロナで制約のあった3年生に楽しんでもらえるよう、文化祭での会場の工夫や体育祭の種目を増やすなど、コロナ前に近づけることが出来た。 今後、校則の見直しを企業の方の意見も参考にしながら生徒主体で進めていきたい。	B		B		校則については、企業の方の意見も参考にしながら、生徒会主体で取り組んでいきたい。

評価項目	評価領域	中期目標	短期目標	成果・評価指標（数値化）	資料	担当分掌	内部評価		学校関係者評価			改善策
							達成状況	評価	考察	評価		
	人権教育	生徒一人一人がお互いの人権を尊重し、それぞれの個性を認め合う心を育て、差別やいじめなどの人権侵害を許さない実践力を養う	人権意識を高揚させ、心身ともに健康で文化的な学校生活が送れるようにする	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒90%以上、教職員90%以上。	学校評価アンケート	人権教育	生徒97％、教職員91％。 おおむね目標を達成しているが、教職員評価項目の「日頃から生徒の人権意識を高める指導をしているか」については84％とやや低調であった。教育活動全般の基礎に人権教育を置くことができるよう、人権教育全体計画の進捗状況を確認していきたい。	B		B		人権教育全体計画の進捗状況を年度途中に確認するなど、より効果的な運用を図っていきたい。
			保護者に対して積極的な啓発活動を行う	アンケート評価項目の肯定的意見 保護者60%以上。	学校評価アンケート	人権教育	肯定的意見68％ おおむね目標を達成したが、人権教育の取り組みをHPにアップするなどの報告が出来ていない。来年度は改善を図りたい。	B		B		人権教育HRの結果をHPに掲載するなど、活動が保護者の方に見えるよう、改善を図っていきたい。
	魅力化推進	地域資源を活用した授業の充実	地域の方や外部指導者と連携した授業展開をコーディネートする	「地域の魅力や資源について考える」 認識　70％	高校魅力化評価アンケート	魅力化推進	●調査時期6月のため、2･3年生での評価値52%。前年より22ポイント上昇しているが、目標未達である。前年度の活動として地域と連携した学習機会を増やしており、数値上昇はその効果があったものと思われる。ただし、地域連携学習は、出商デパートなどのように学習活動が本格化してくる2学期以降に多く取り入れているが、年間を通じて継続的な取り組みを行っていく必要を感じている。	C	調査の時期が問題なのであれば、調査を年に複数実施することも検討してはどうでしょうか。	C		コンソーシアム等を相互連携し、各授業や行事などへの日常での関わりを増やしていく。ふだんの学校生活がもっと校外に伝わるよう、情報発信を行う。 アンケートについては、学校単独1・2学期末に実施している「学校評価アンケート」と組み合わせて行っていく。
			身の回りの課題に気づき、課題解決しようとする生徒を育成する	「地域の課題の解決法について考える」 認識　60％	高校魅力化評価アンケート	魅力化推進	●調査時期6月のため、2･3年生での評価値57%。前年より26ポイント上昇しているが、目標未達である。前年度末に「出雲ミライラボ」として地域を題材とした探究学習を取り入れた。今年度は1年生に探究活動を取り入れたり、3年生課題研究に考える視点を加えて取り組んだ。来年度に向けてさらに改善を図る必要を感じている。	C	昨年度からの数値上昇を鑑みて評価しました。	B		地元情報誌からの情報提供を増やし、地域の題材を取り入れた学習を実施する。 商業高校生ならではの「ビジネスの視点」をもった生徒を育てるために、地元企業家との交流や地元産品に直接触れる機会を設ける。
働き方改革		全ての教職員のワーク･ライフ･バランスの適正化を図り、働きやすい職場環境を確保する	月あたりの時間外労働勤務の平均時間を削減する	全教職員の月あたりの時間外勤務の平均が55時間以下	時間外勤務集計システム	教頭	●時間外勤務の平均は54時間であり、全体としては目標達成ができている。ただし、個人間での差が大きい。	A	確かに数値達成はできているのですが、目標値ぎりぎりであること、また個人間の差が大きいとのことで評価をBとしました。	B		部活動顧問の複数体制、学校行事の精選、合理的な会議の運営など、学校運営の体制整備を進めるとともに、業務アシスタントの活用や事務室との連携を行いながら、教職員の業務負担の軽減を模索してい
			教職員が年次有給休暇を積極的に取得する	全ての教職員が、年5日以上の年次有給休暇を取得	総務事務システム	教頭	●全体として91％の達成状況であり、昨年度より6ﾎﾟｲﾝﾄ上昇した。4名の教職員が達成できなかった。	B		B		すべての教職員が、必要な時期に安心して休暇を取得することができるような体制や雰囲気をつくる。
			仕事と仕事以外の生活のバランスを図り、相互に好影響を与えている状態にする	ワークライフバランスがとれていると感じる教職員の割合が70％以上	学校評価アンケート	教頭	●バランスがとれていると感じる教職員は68%であり、昨年度より14ﾎﾟｲﾝﾄ上昇したが、目標未達である	C	特にコメントはありませんが、昨年度からの数値上昇を鑑みて評価しました。	B		仕事量の偏りを極力解消できるような人員の配置、チームで機能する学校体制を構築し、教職員が仕事と仕事以外の生活バランスが図れるように努める。